

幼稚園における

絵画製作の指導



藤田復生

幼稚園における絵画製作とは、言うまでもなく、満三才より小学校入学までの幼児の集団教育の場における、物質素材を通しての造形表現の活動であり、素材を用いての自己表現の活動であります。

そして、人間形成のために重要な要素として考えられるところの、幼児の生活の一部分をなしているものと言えます。

さて、この重要な要素とは、

第一に

人間の持つ表現性の助長をめざすものであって、自己の内在于るものを物的な素材を用い形を伴なって、外界に表現されるので、即ち物をつくり出す創造活動を育てることにあると言えます。

第二に

人間の情緒の安定性を育てるものであり、この活動によって自己の欲求を満たし、更に人間性のもつ、美的情感を育て精神の浄化を促

すことにあると言えます。これこそは、人格形成における人間性の基盤となる最も重要なものであります。

第三に

この活動は、自然、人工の素材に直接にふれることによって、色、形、質の感覚が人間の感性によって高められ、創造的な豊かな生活をきずきあげるものとなるのです。

第四は

この活動は、あらゆる材料を自己のイメージに適應させて表現して行くことや、身边を美化し装飾することによって、生活にものを適應させる能力を養わない、人間社会においても、個人としても生活を豊かにしていくものです。

第五は

その他、表現による伝達性や、集団生活中における協調性を必要

としてくるなど、以上の多くの要素は豊かな個性を形成することになり、人間形成の途上にある幼児期においては欠くことの出来ない教育分野であります。

また、教育とは、その成長発達に応じた適切な指導と環境によって、これらの重要なものが助長されると言っても過言ではありませぬ。

幼児の造形教育についても、ここ十数年間日本が民主主義社会の機構をもってからは、実にはなばなし、研究や運動が展開され、諸外国の影響によって、心理学的考察や、精神衛生学上の見地から論究されて多くの示唆が与えられ、社会状況をもとになって、活潑に展開されてきました。

不肖、私も文化国家再建の願いをもって、戦後長い画家の生活をすてて幼稚園を創設し、幼児教育の現場に指導者として、幼児とともに過ごして来た今日まで、私は、私なりに実践指導者としての信念をもって、十五年を歩んできましたが、今日ではもはやそれぞれの論議が出しつくされた感がありますが、造形教育の体系的な教育観に未だ不安を感じます。

ただその、考察や方法の角度が時代性を背景に異なるのであって、根本的には同じところにあると言えるので、我々が常に願う、理想としての人間を創り出すための、幼児期の生長を、この造形活動を通して、どう考えたらよいかということでありましょう。

したがって、多種多様に思われる研究も主張も教育上、貴重なも

のであり、役立たせなければならぬものであるにもかかわらず、これを受け入れる側の者の理解と利用の仕方によって、適、不適な場合が生じてくるので、自分の手元の幼児の姿を見つめる心をわすれ、他のものへすがりつこうとすることから、幾多の問題が生じてきていると思われるのです。

ハバード氏やまた、ルドルフ・アーンハイム氏も、深い人間性に根ざされた、美術評論家、心理学者として、こどもの絵について、広い学識をもって論じられておりますし、また昨年亡くなられた、宮武辰夫氏も、幼児の造形教育について足跡を残されていまして。

その他多くの人が、幼児の造形教育に関心をもって研究をされておりますが、ただ、ここに我々が心しなければならぬことは、それら多くの人々は、その人のみがそれをなし得ることであり、彼らの世界観を背景とした、業績であり思想であるということです。

先人の教えを吸収することは大切であっても、それを真に理解することなくしては、いささかも役立たぬものであり、また、如何に理解し得ても、彼らと同一には、なり得ないものであるという言い方も出来るのです。現場の教師は、「○○氏はこう言った、私は信ずるが故に、我は実行する」式ではならないものでありましょう。

また、私共はその能力才能がないからということばを、しばしば耳にします。幼稚園教師の世界において、これがもし謙譲の美德であるかのように思うなれば、それは罪悪であり、教師としての失格

者でしかなく、謙讓と言うべきではないのであります。

全人でない我々が、謙虚であるとともに、全人たらんと努力を続けるところにこそ、教師としての使命をもち得るものであり、これはただ全力を挙げて、幼児と共にあって、その幼児達のために学び、何らかの役に立とうとして、一步一步の歩みを続けることによって、責が果されると言えましょう。

そこで、我々現場の者が、幼児の造形活動についての、指導ということを考えるならば、一体何を基本となすべきでしょうか。

私は、教育とは常に、基本的な流れの上に、新鮮な指導がなされなければならぬと思うのです。

造形教育における、基本的な流れとは、歴史的な流れの上に立た、基礎的な考えを基としていると言えましょう。

即ち、人類における、造形の発祥から発達における段階や、人間のもつ表現性の発祥であり、それと同じような姿で、乳児から幼児期へ、更に青年期への発達と発展が、何によってきさえられ、また何によって成長して行くかにあると思うのです。

原始人は、欲求から願望を、更に必要性によって、造形活動を進めて来たと言えましょう。そしてそれは、素材を適応させる経験を重ねるに従って、興味を覚え、更に機能的に巧者になり、生活の必要性にせまられて、創造活動を行ってきたものです。

たとえば、穴居の生活から、木の上の小屋がけとなり、集団社会を形成することにより、地上に掘立小屋をつくり、裝飾をほどこ

し、長い年月のうちに、今日の近代都市を創り出しました。また火を作ることを、山火事から発見し、木をこすり合わせて火をつくり、火をたやすことなく炎しつづける努力をし、消えた焼跡から土の変質を知り、土を焼く事を発見して、土器を作り、容器を作つて、更に陶器を作ってきました。また、心のうったえを、絵や彫刻の手法によって表現し、更に記録して人に伝えて、生活をより美化しようとしてきました。

この文化の発展は、乳児から幼児に成長する過程にあてはまることで、この人間の長い間の歴史的過程を、いかに今日の子どもに経験させるかにあると言えましょう。そこに幼稚園教師としての役割があり、指導の問題があると思われれます。

幼児の欲求や願望をとらえ、それを満たしてやるために、方法を見せ、そして手にする素材を通して、造形的に体験させることにあるのです。

更に、より高度の文化人として、育てて行くためには、優れた感覚を育て、能力を高めることによって、人間としての満足感や、情緒的安定感をもたせることが出来ると言えましょう。

原始の時代は、前述のように、自然の中から素材や方法を発見し、自然の素材を利用して、欲求や願望をとげ、そして生活に役立たせてきました。

ところが、現代社会に生まれる幼児は生まれながらにして、現代の文化財を与えられます。つまり、造形素材としても、積木、紙、

粘土、繊維品、木材、その他、接着材、器具などの便利なものの中に、そして人工的な色彩の中で、いきなり育てられてゆくのです。

そこで、先ず幼児期の始めに、出来得る限り、自然の中で自然の姿で、活動させ、素材を発見させ、方法を会得するようにさせる必要があるのです。

紙に画を描かせる以前に、地面に、指あるいは棒切れのようなもので、自由に描画的活動をさせ、石ころを並べたり、積んだり、砂や土いじりをさせ、次に積木を使い、粘土をつかっていくような過程を通じて経験させます。自然の花や葉から色を感じ、それを

次に、色紙や色素材に進んでゆく段階をふんでゆきたいものです。

それを教師として、指導してゆく場合、幼児の一人ひとりが、何に興味を示すか、どの程度の発達の状態であるかを見てとり、更に興味を増してやるように、望ましい姿で経験がなされるように、助成してゆくことなのです。

近代社会が極度に発達してゆくしたがって、この人間性と言うか、人間の本来性がなくなり、いきなり近代文化の中に放り出され、文化的素材をいきなり与えられて消費的な経験が重ねられてゆく事は、人間が機械化されて、創造力を失ってゆくのではないかと思われまます。

創造とは、人間性を背景に作り出されてゆくことで、幼児の時代に、物質的な造形素材が全身を通じて廻り得られ、それを、自己の欲

求や願望を満たし、意識的表現が出来る能力をやしなっていくように考えなければなりません。

そして、自然と人間社会の中にあつて、ものを感じ得る感性をもった人間の母体を育てることではないでしょうか。いかに技術が向上しようとも、その人間に感性が乏しくしては情緒も豊かに育つものではなく、物質文化が高度に発達すればする程人間として、最も必要性をもってくるものであります。

いかに、社会状況が変わろうとも、健全な体と、表現能力と、豊かな人間性を持つていることが大切に思われるからであります。

幼児教育にたずさわる指導者は、健康な体と、健全な精神、指導能力をもつて深い人間性に根ざした教師が、地みちに一步一步をきずいていくものでなければなりません。

確固たる教育理念と、体系だった考えの上に周到な指導計画をもつて、素材を有効に且つとらわれることなく、自由な気持ちで経験させていくことであります。

言うなれば、いつ、どこで、なにを、どのように経験させ、それが教育的に実を結ぶように進められることが、造形活動の指導の要点と言えます。

徒らに、雑多な素材が与えられても、高価なものが与えられたからと言っても、創造力は伸びるものとは考えられません。

適切な、一つ一つの素材が有効にその役目をはたされることを、念願するものであります。